

白老町立国民健康保険病院改築基本計画（概要）

I 基本構想の一部見直し

/1 本町を取り巻く環境と将来見通しの変化について

将来の人口推計や医療需要の傾向、医療レセプトから見た受診動向等を分析する。

本町及び医療圏域において人口減少は進むが、令和 22 年にかけて 90 歳以上の高齢者人口は増加し続ける。町立病院においては後期高齢者の受診傾向が非常に高い。また、年齢が高くなるにつれて利用割合が高くなる。この傾向は今後も変わらない見通しである。

/2 令和 22（2040）年を見据えた町立病院の役割と機能について

前項の人口推計及び医療需要、受診動向をもとに、令和 22 年に担うべき役割と機能の方向性を示す。

病院改築における病床機能及び規模については、軽度急性期をはじめ回復期傾向の患者受入れにも対応する適切な病床機能を持ち、病床利用率の向上を図ることを前提に、一般病床 40 床程度の保有を基本とする。このうち、地域包括ケア病床については、東胆振医療圏域の急性期及び回復期患者数の傾向を踏まえ、病院改築時において最低 22 床程度の運用が必要である。

/3 総務省における公立病院の建替えに関する確認結果について

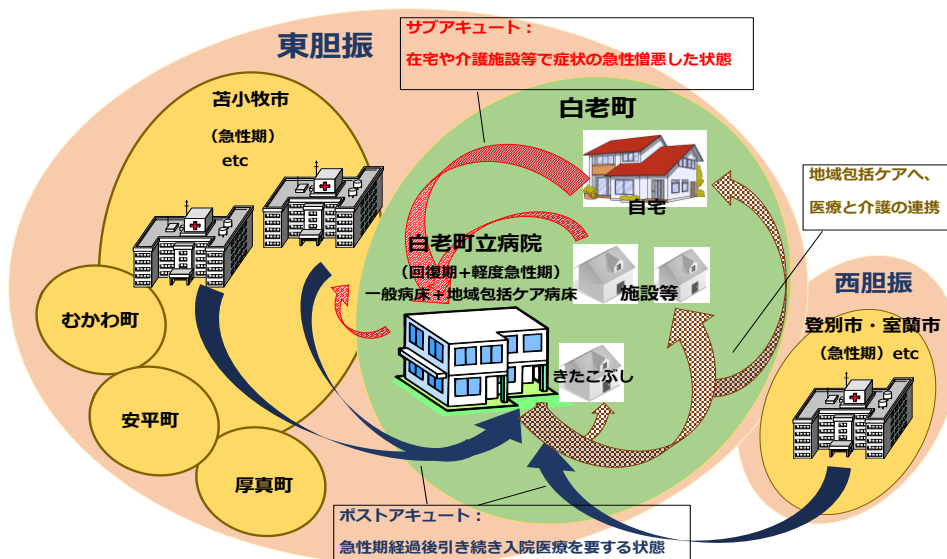
本町の改築事業が地域医療構想との方向性に合致しており、また、総務省から病床数のダウンサイジング（58 床→40 床）を条件に事業着手の同意を得ている。

II 全体計画

/1 病院理念と経営方針

「患者さんに信頼され笑顔と思いやりのある病院づくり」を病院理念に掲げ、東胆振医療圏における 2 次医療機関との広域的な連携を図り、軽度急性期並びに回復期患者の地元受入れと併設型介護機能を兼ね備えた、医療・介護福祉の一体的な提供を担う新たな病院として、本町の地域包括ケアシステムの構築に貢献していく

〔地域での医療機能分化における町立病院の役割〕



2 病床数

令和 22 (2040) 年の本町及び東胆振医療圏域に加え、西胆振医療圏域の近隣 2 市における人口構造や医療需要を踏まえるほか、白老町民の回復期患者傾向などを考慮し、一般病床を 40 床とする。

現行	18床減	新病院 (案)
一般病床58床 (稼働50床) うち救急7床	➡	一般病床40床 うち救急3床

3 診療科目

今後の後期高齢者における長寿命化傾向を踏まえ、基本診療科目は「内科」、「整形外科 (もしくは外科)」、「小児科」とし、出張専門医の招へいによる専門外来診療についても継続していく。また、出張専門医の登用状況を踏まえながら専門外来診療科目を継続する。

現行	新病院 (案)
内科、外科、小児科、放射線科	内科、整形外科 (外科)、小児科

※出張医体制 (循環器内科、呼吸器内科、皮膚科)

4 介護医療院きたこぶし

改築に伴い介護老人保健施設から、慢性期機能を有する介護医療院へと転換を図るとともに、定員数 19 人による多床室形態として整備する。

現行	改築整備 (案)
医療機関併設型 小規模介護老人保健施設 定員29名 (多床室)	併設型小規模介護医療院 定員19名 (多床室)

5 救急医療

初期的救急受入れに努め、他の 2 次医療機関や専門病院等との連携を図る。

6 リハビリテーション

リハビリテーション科の施設基準取得によるリハビリテーション機能の強化を図る。

7 三連携 (予防医療)

町民に対する生活習慣病の重症化予防施策の一翼となるよう健康・栄養教育の充実と疾病予防や早期発見のための健康診断業務の拡大、健診後のアフターケアの充実を図る。

8 在宅医療

訪問診療体制の継続と訪問看護事業者等の関係機関との連携をはじめ、地域包括ケア病床並びに併設介護医療院との相互連携により、地域包括ケアシステムの構築に貢献していく。

9 基本構想での懸案事項

改築に伴う人工透析診療科の新設はしない。

10 医師住宅

周辺民間アパートの入居へと移行し、更新は行わない。

Ⅲ 施設整備計画

／1 基本方針

- (1) 患者の利便性、安全性、快適性の確保
明るくゆとりのある空間づくり、ユニバーサルデザイン、ICTの活用
- (2) 患者の状態に応じた効果的、かつ効率的な治療の提供
動線や配置の工夫
- (3) 職員が働きやすい施設
円滑に業務を行うためのスペースの確保、快適な職場環境づくり
- (4) 経済性に配慮した施設
初期費用の抑制やライフサイクルコストの低減、LED照明の採用等
- (5) 災害に強い施設
災害時においても病院機能を継続できる施設構造、トリアージ及び処置等に対応できる設備及び施設構造、地盤の嵩上げ等による津波浸水対策
- (6) 人口減少に対応した柔軟性のある施設
人口動態の長期的視点を踏まえた、永続的に有効活用が図られやすい配置や構造

／2 施設利用計画

現施設概要	
住所地	白老町日の出町3丁目1-1
敷地面積	14,923.89㎡
用途地域	第1種住居地域
延床面積	4,058.48㎡
建設概要	鉄筋コンクリート造3階地下1階造
病床数	建設時100床（現在58床、介護老人保健施設29床）
新病院施設概要	
住所地	同上 ※現地建替え
敷地面積	14,923.89㎡、他に隣接国有地取得を想定
用途地域	同上
延床面積	4,100㎡（変動範囲+5%以内）
建設概要	鉄筋コンクリート造2～3階造
病床数	一般病床40床、介護医療院19床

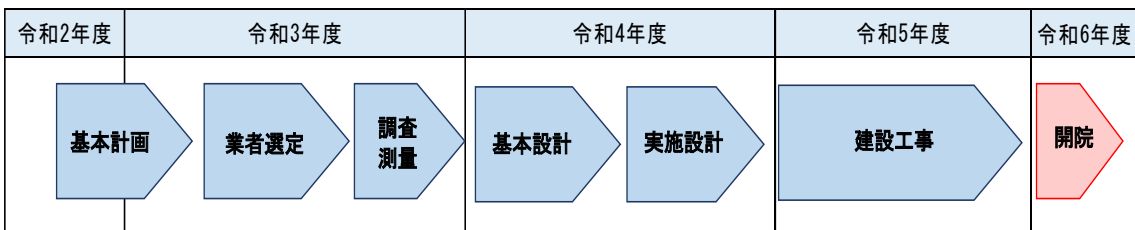
／3 配置計画

建替え場所は北西面の国有地取得を前提とし、北西面及び南東面の敷地を候補地とする



／4 整備手法・スケジュール等

全体工期の短縮と建設コストの縮減を考慮し、基本設計からの設計施工一括発注（デザインビルド）方式を採用する。また、整備スケジュールについては以下のとおり。



【概算総事業費】 29億6千1百万円

IV 部門別計画

部 門	基本方針
外来部門	
外来	・患者にわかりやすい案内表示、明確な動線、施設規模に見合った待合ホールの確保、プライバシーへの配慮に対応した施設整備
救急診察	・初期的救急の受入れを基本とした施設整備
中央倉庫	・診療材料の適正な在庫管理が行える施設整備
健康診断 (健診ホール)	・受診者が快適に受診できるよう、アメニティや配置を工夫した施設整備
病棟部門	・医療事故、院内感染防止への配慮、患者の視点に立った安全かつ快適な療養環境（清潔感、広さ、プライバシーの保護等に配慮）に対応した施設整備
リハビリテーション部門	・地域包括ケア病床患者の在宅等復帰及び併設する介護医療院入所者並びに外来患者の機能維持に資するためのリハビリテーション科の設置と理学療法、作業療法等が効果的に実施できる環境整備
放射線部門	・外来患者の利便性、職員の動線を考慮した部屋の配置を基本とする施設整備
内視鏡部門	・専門的な検査・治療を提供できる検査環境整備
臨床検査部門	・正確な検査データを迅速に提供できる検査環境整備
薬剤部門	・安全で質の高い調剤が行える施設整備
栄養給食部門	・患者個別の状態に応じた最良の栄養管理が行える施設整備
地域医療連携部門	・地域医療連携の調整窓口に必要な機能を備えた施設整備
管理運営部門	・施設設備の安全性・快適性に配慮した施設整備
医事部門	・受付や会計、入院案内等の業務の効率化に配慮した施設整備 ・患者を待たせない運用や待ち時間の短縮など、患者サービスの向上が図られる整備
その他サービス部門	・施設やアメニティ等の充実により、患者、職員の利便性、快適性が高まる施設整備
介護医療院きたこぶし	・「日常的な医学管理」や「看取りターミナルケア」等の医療機能と「生活施設」としての機能を兼ね備えた施設整備 ・要介護者に対して「長期療養のための医療」と「日常生活上の支援」を一体的に提供できる施設整備

V 医療関連計画

部 門	基本方針
医療情報システム	・将来必要となる医療情報システム構築を見据えて運用に必要な情報ネットワークやW i f i環境の整備を建設時に実施する
医療機器整備計画	・機器の導入にあたっては、継続使用が可能な現有機器の移設を優先に、新規購入が必要な医療機器は緊急性や費用対効果などを検討したうえで整備する